

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891400158		
法人名	株式会社 ゆとり		
事業所名	グループホーム すみよし		
所在地	兵庫県篠山市住吉台105		
自己評価作成日	平成29年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成29年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は住宅街の中にありまさしく地域密着型であり木造の広い空間にグループホームと小規模多機能が併設しており落ち着いた雰囲気環境であります。ご利用者様もご近所の方が多くご家族面会や自治会の交流も行いながら家庭的な雰囲気を大切にしご本人の意思を尊重し安全かつ細やかなケアが提供されるよう心掛けています。医師や看護師、薬剤師、歯科衛生士などとの連携を密にすることにより健康管理にも力を入れております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営している多くの事業所で培ったノウハウを結集し、4年前に開設された新しい事業所である。事務所を中心に両翼に広がった2つの事業所は平屋建てで、前は広い駐車場となっている。地産の材木をふんだんに使った内外装、バリアのない広い玄関、解放感が有る高い天井と梁、広くて長い廊下、リフトを備えた浴室など、法人の代表初め職員の想いが籠った特長は、枚挙にいとまがない。職員は法人の事業所で長年経験を積み、若しくは研修で鍛えられているので、法人の理念を周知している。リビングでくつろぐ利用者は、平均年齢が90才真近とはとても思えぬ程に元気である。事業所は、至近の距離に有る法人発祥の事業所と共に、この地域の貴重な福祉資源であり、今後とも地域に密着した発展を遂げられる事を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生命を尊ぶ」「自立支援を行う」「利用者と家族の意思を尊重する」「笑顔と声掛け安心介護を行う」という施設の4つの基本理念を掲示し毎朝職員全員で唱和することで理念の再確認と意思の共有を行っています。	理念と共に掲げる「日常五心」は、法人共通のものであり、「素直・感謝・反省・謙虚・奉仕」の心を大切にしている。職員は、「はい・有難う・済みません・お蔭様で・私がやらせて頂きます」と、日々のケアの中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の消防訓練や盆踊り等の行事、2か月に1回開催される喫茶会にお招きを頂き、入居者と職員で参加を行っています。施設の行事には、ご近所の方もお誘いするなどの交流を行っています。	自治会活動を通して地区との交流を実現している。公園などの草刈りでは職員が草刈り機を操作している。自治会主催の盆踊りには、車椅子利用者も含め、ほぼ全員の利用者が参加して、地域住民と輪になって踊りを楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での民生委員との情報交換の中で地域の高齢者についての相談を受けたり事例を紹介しています。電話相談等を頂いた時は、丁寧な対応を心がけております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況、実績、ご利用者の状況の報告を行っています。地域包括や当市の担当者様の連絡、介護保険や地域の高齢者の相談など話し合っています。	近隣の法人事業所と合同で、隔月に開催しており、自治会長、行政、介護相談員、地域包括、民生委員が参加しているが、家族の参加は無い。利用者の事業所間の移動や、入院から退所に至る事例などの質問に答えている。議事録を行政に渡しているが、今後家族にも郵送したいと管理者は考えている、	議事録を家族に郵送する中で、参加を呼び掛けられたらどうであろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月一回介護サービス事業所協議会にて市と事業者全体の情報交換、状況の把握を行っています。特に、介護保険課・高齢福祉課等は、繋がりが深く大切に致しております。	法人代表初め管理者が足繁く行政を訪問し、密な関係性が構築出来ている。行政からの出席も有る地域の事業所連絡会では、情報交換をするともに、研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束への理解を深める啓発や研修の実施。安全第一に見守りの強化を実施。ご入居者様の身体保護の為、代替え策が無ければ、ご家族と十分に検討し、短時間の了承を得る場合も考えられる。日中の玄関等は解放しています	玄関を施錠するのは夜間のみである。センサーマットを保有しているが、使用事例は無い。拘束性がある器具を使用する場合は、事前のカンファレンスと家族から承諾を得る事としているが、記録として残す書式の準備は未だ無い。	拘束性の有る器具の使用開始や、継続使用の是非を検討した記録が残せる書式の準備をお願いします。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の実施、職員全体での声掛けなどを実施必要に応じて勉強会やその都度職員への指導も行っていきます。	身体拘束の排除と虐待防止に関する研修を受講して、その必要性を職員に周知している。カンファレンスの時間などを活用して、精神的な虐待に該当する様な事例を職員に示して、話し合っている。職員が休憩時間にゆっくりと休める様に配慮し、ストレス解消に努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の実施、専門部会の勉強会に参加したり、兵庫県社会福祉士会の研修に参加の職員もいます。内容に関しての研修は、都度実施しています。職員の自己評価を行っています。	制度に関する概要資料を準備しており、契約時や入居後の利用者及び家族の状況を見、必要に応じて説明をしている。職員向けの研修も行っているが、活用事例が無い。現在、成年後見制度の利用案内をしている利用者がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、ご本人、ご家族の見学やお試し利用も受け入れも可能です。事前に訪問や面会を行いお互いの理解を深め疑問、質問にはわかりやすくお伝えするように努めています	利用者と家族には、契約前の見学をお願いしており、空室があれば体験宿泊も受け入れる。説明時に多い質問は、費用面、外来受診に於ける事業所の支援、容態が重度化した場合や看取りでの支援などであり、それぞれ丁寧に説明をし、納得を得ての契約となっている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月のお便りにて細かく身体状況などの報告や電話での連絡を行っています。ご家族からの意見などもその都度対応を行っています。運営推進会議でもお伝えしています。	意見箱は置いていないが、家族からの意見や要望は来訪の都度聴く様になっているが、運営に反映する様な意見は少ない。事業所内に職員の顔と名前が張り出されていないので、名前が分かりづらいという家族からの要望が出ている。	家族に、職員の名前が分かる工夫をされたらどうだろうか。又、家族のナマの声を聴く工夫をされたらどうだろうか。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの実施により意見の交換を実施。毎朝の朝礼時にも意見交換などの確認周知をしている。参加出来ない方は、回覧にて周知徹底を行い必要に応じて個別の対応も行っています。	朝礼時やミーティングの時間に意見を聴く時間を設けている。意見を反映して、車椅子に乗ったまま計れる体重計を購入した。利用者への適時の排泄誘導や水分補給が出来る様にと、24時間の状況が一覧できる書式を、職員とケアマネが考え、実務に活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に責任感とやりがいを持って仕事に取り組むよう配慮している。業務や係の分担を決め話し合いの場を持つなど行っています。行事や企画などの提案実施も行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加の呼びかけや内部研修の実施を行っています。日々の業務の中で介護技術の苦手な部分は指導者が現場で指導する場を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業者会議の定例会や研修会において情報交換を行っています。又事業者部会の研修会や介護相談員様との交流会などにも参加し同業者や他事業者との交流を深めています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の思いとは別に、ご本人とお話しを直接困っている点などの要望をお聞きしております。ご本人の不安をまず解消し信頼関係を築いていくようにしています。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや気持ち、ご希望等、現状で困っている事などが話せる雰囲気にも努めながら傾聴し、ご家族に少し協力を頂き、共に解決を行う事で信頼の構築が出来る様になっています。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分にご本人とご家族から要望を伺い主治医や認定調査の意見資料を参考にしながら、インフォーマルサービスの導入も含めて、心身機能の回復に努めています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	情報提供や聞き取りだけでは、不十分な事が多いので事前に自宅の生活環境や生活歴、病歴など情報の把握をするようにしております。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族として、甥様や孫様が関わって頂いている場合も有ります。随時の電話や月の報告・お便りで状況のお知らせも行っています。ご来所時に外食されたり、外泊して家族と共に旅行に出かけたりと、家族との絆も深まる様子が見られる。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	近所の初詣やお花見、紅葉などのドライブや自治会、市の行事やイベントに参加したりと行っています。ご近所の知人の面会にも対応しております。手紙や電話の取次ぎを行っている。	毎月家族に送る「お便り」で、利用者の近況を知らせている。行事や外出時のスナップ写真を載せ、利用者や家族の関係性を保つ支援をしており、家族の評判も良い。季節が良い時期には、利用者馴染みの地域の史跡や公園へと外出する。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性や人間関係を考慮しながら食事やレクリエーションの座席配置など検討し対応しています。関わりの苦手で孤立がちの方には職員が間に入り円滑に関わりが持てるよう努めています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ利用になった場合は、担当者への情報提供を都度行っています。ご家族へもいつでも相談できる旨を伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で信頼関係が築けるように努め意思疎通が難しい場合でもご本人の表情や仕草で思いが読み取れるように努めています。	コミュニケーションが難しい利用者が複数いる。入居前の生活歴や、家族との拘わりを密にしながら、利用者の想いを推し量っている。発語が困難な利用者の場合は、選択肢で質問を投げ掛ける事によって、想いの方向性を把握する様にしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境、生活歴をご本人やご家族から伺ったり、センター方式の生活歴の記載をお願いしています。前任のケアマネや主治医からも情報を頂き、これまでのご様子を出来るだけ多く把握できるよう努めています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報などやこれまでの暮らし方の状況を把握し、理解するように努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活記録や医療情報等をミーティングにて各利用者に関する情報を収集しケアマネとご本人やご家族の要望を伺い、反映させるように努めています。	利用者毎に主担当の職員を決めている。他の職員の意見も参考にして、主担当が利用者毎の「個別ケア計画」を作成する。3~4ヶ月毎にモニタリングし、医療情報も参考にしながらケアマネがまとめる。介護計画は基本4ヶ月毎にケアマネが作成し、家族の意見は、来訪時か電話で聴き取ることとしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と共に身体状況に応じたチェックを作成し情報の共有を行っています。状況の変化に伴い、対応している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院へ同行、移動支援。体操や歩行の個別機能訓練。ご家族からの外出や外泊依頼など柔軟な対応も行っています。外泊時の車椅子の無料貸し出しで移動の便宜を図る。青汁やOS1の飲用・SPO2測定、酸素ボンベ管理、		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員・協力員と連携体制を取り支援を行っています。隣近所や近隣の店舗などとも連携を行い情報の共有を行っています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には、心身状態の情報提供を毎回送信しています。毎週の往診の他にも各往診があり状態変化の受診や緊急の対応も行っています。他の協力医療機関や調剤薬局との連携も行い対応しております。	現在、利用者、家族納得のうえで、協力医療機関の往診を利用している。定期往診以外の他科についても、希望に応じて受診できるなど、利用者の状態変化に添った柔軟な体制が確保されている。定期的な口腔ケア体制が整備され、歯科の往診も希望できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは常に情報の共有を行っています。特変がある場合には処置の実施。ご家族や主治医への連絡を行っています。他の協力医への受診前には情報提供を行っています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は早急に病院関係者への情報提供を行っています。その後も見舞ったり、情報提供を行い連携に努めています。退院時は、サマリーで状況の再確認を行い、退院後の帰所受け入れを基本として対応しています。	昨年、入院事例はあったが、できるだけ入院回避に努めている。入院時は、利用者が安心して治療できるよう職員が見舞い、声かけしている。早期退院及び事業所での受け入れ体制等、家族と医療関係者と密に情報交換を図っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ターミナルケアや医療的生命維持のご希望などを伺い、後日に署名をお預かりしている。ご本人やご家族の意思を尊重し医師に伝達。主治医なども含め終末期においては、今後の対応に対しての意向を話し合い柔軟に、適切なケアが提供できるよう検討します。	契約時に事業所の方針を説明し、納得を得ているが、利用者の入院等状態低下があった場合、その時点で主治医を交え終末期対応についての意向を確認している。職員は、緊急時の事例を参考にした研修にて学び、カンファレンスで共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所には、連絡方法のマニュアルが掲示されており研修やミーティングで円滑にできるように努めています。夜間緊急時は、所長や看護師への連絡を行い支持を受ける。必要時は協力医に連絡、指示を受けて対応を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火、消防の訓練の実施、研修なども行ったり自治会やs市からの情報があればプリントアウトし共有に努めています。日頃から避難経路の把握と整理整頓も実施しています。	6月に夜間想定による施設合同の避難訓練を行った。利用者も共に避難経路を確認し、職員は実践に即して対応の確認、検証を行った。地域の自営消防訓練にも参加し、今後は運営推進会議等で地域との協力体制について、積極的に働きかけていく考えである。	

自己	者 第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮しご本人を尊重した声掛けと対応を話合っています。気になる事があればミーティングや個別に指導しています。	入職時研修にて、理念に基づき周知を図っている。特に、排泄時の声かけや対応について、排泄用品が目につれないよう配慮するなど、職員は日頃から注意している。衣服等の汚れや入浴の際の羞恥心についても、その人に沿った対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人からの要望を聞く時間を設定したり普段から接している中での情報収集やご家族とも情報の交換を行いご本人の希望などを引き出せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の一日の流れの中で臨機応変に対応できるように柔軟な対応を心掛けています。身体機能保持目的に、個別メニューのリハビリタイムを取り入れております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が常に気を配っています。ご本人がクリームを塗ったり化粧などもされる方もおられます。入浴後にゆっくりして頂ける時間を設けています。次の入浴に着用して頂く服をご自分で選んで頂いたりしております。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日職員が同じ食事をとったりキッチンとリビングがつながっており食事をする音や匂いも感じて頂ける環境になっております。能力に応じて手伝いなども行って頂いたりしております。	季節感や高齢者の食べやすいメニューを職員が手作りし、一緒に食している。利用者も一緒に買い出しに行き、中には調理に参加したり、準備や後片付けに役割として関わっている利用者もいる。月に1回ほどホットプレートを使ってみんなで調理したり、カステラなどのおやつを手作りして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量の確認を行い記録しています。摂取状況は必要に応じてご家族に連絡し変更の必要時にはその都度相談をさせていただきます。よろしくお願いいたします。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には口腔体操を行い夕食後は、歯磨きや義歯の洗浄を行っています。必要に応じて歯科衛生士の訪問チェックを受けたり、歯科の受診を行ったりしております。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易なおむつの使用がないように日中、夜間ともにトイレ誘導を基本にしています。プライドを尊重し排泄や失禁の確認を行っています。	自分でトイレに行っている人もいますが、多くはリハビリパンツを使用している。職員は、個々の排泄パターンを参考に早めに声かけ、誘導している。失禁を防ぎ気持ち良くトイレで排泄できるよう、丁寧な様子観察に努めている。車椅子の利用者で、夜間、安心のためポータブルトイレをベッド横に置いている人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表を基に管理し必要に応じて看護師、主治医に相談しています。毎日の体操や歩行訓練、水分摂取や関連食品などの摂取対応も行っています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴をして頂いております。体調不良や拒否の方の対応も随時行い更衣や清拭、足浴なども都度行っています。	併設施設と共同利用で、目安として週3回を予定しているが、希望や失禁等により柔軟に対応している。体調によりシャワー浴となることもあり、その日の体調管理には気をつけている。車椅子の人はリフト対応で安心して入浴できる。しょうぶ湯などの季節風呂は好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は休んで頂く時間を設けたり状態に応じての臥床や休憩を行っています。又昼夜逆転にならないように配慮したり離床で過ごされる方のレクリエーションなども行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を管理し変更時はその都度更新しています。職員全員が把握できるようにファイリングしています。服薬ボードを活用し看護師、薬剤師と連携し準備、管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の能力を考慮し出来る事を安全に配慮しながらお手伝いして頂いております。そうする事で役割を持って頂いております。雑誌や趣味の用品も出来る限り自由にお持ちして頂いております。刺繍が趣味の人もおられます。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩やドライブを行ったり自治会などの行事にも参加して交流しています。ご家族よりの外出や外泊依頼にも柔軟に対応を心掛けています。	利用者の希望により近隣の店におやつを買いに行ったり、地域の盆踊りやふれあい喫茶に参加するなど、地域住民の協力も得ている。お正月に自宅に帰省し、家族と水入らずで過ごしている人もいます。気分転換に、ドライブにも行っている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金庫にて管理しており出納簿をつけ毎月ご家族に状況をお知らせしております。個人での所持は紛失などがあった場合施設では、責任が取れない事を納得して頂いた上で、少額の自己管理をして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所で対応しております。ご家族からの電話を取り次ぐ事もあります。手紙などの制限もしておらず必要に応じて郵送などの対応をしております。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造建築で広い空間となっており壁面や季節の飾りなど設置しております。トイレも両端にあり導線に余計な物など無いように安全と清潔に配慮しております。温度調節も利用者に合わせた細かい調節を行っています。	平屋で天井が高く太い木の梁が通り、大きな窓からは自然光が差し込み、木々の移ろいを感じられる。大きな食卓テーブルを2つ並べ、利用者はそろって食事を囲む。併施設と共有の玄関横には、シューズボックススペースが備えられ、使い勝手が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方と過ごしたい方一人で休息したい方などご本人の意向を中心とした過ごし方を基本にしたりとご本人を尊重しております。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に十分配慮を行い、写真や私物の設置を行い、馴染みやすい場所にとお願いしております。危険であれば、ご家族と話し合って気づいて頂ける様に少しのアドバイスをお伝え致しております。	ベッド、床頭台、クローゼットが常設されている。クローゼットに、寝具や衣類、消耗品等が整理され、すっきりしている。家族の写真や自分の趣味の小物、雑誌等が身の周りに置かれ、その人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には個々の花の絵や名前を明記したり確認しやすい。トイレのマークをわかりやすい様に人の形のマークに変えた。窓のカーテンを一方方向に一枚にしている。洗面所に利用者制作のカレンダーが見える様にしている。		